

STAGE+を楽しむ(178)(HP 収載)
—ラトルのマーラー交響曲第3番—

1. 始めに

前報(177)に引き続き、STAGE+のラトルのマーラーの交響曲第3番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はヴェルビエ音楽祭のサイモン・ラトルのマーラーの交響曲第3番の演奏を選びました。

ライブ配信 2024年7月20日 1:30

ラトルがマーラーの交響曲第3番を指揮

ヴェルビエ音楽祭

再配信 2024年7月20日 9:00

再配信 2024年7月20日 21:00

「全世界を映し出すような規模の作品を想像してみてください」。1902年に初演された交響曲第3番に関するマーラー自身の言葉は、彼の壮大な野心を適切に描写しています。その6つの楽章は、行進曲、牧歌、快活な合唱曲、コントラルトが歌うニーチェの詩、そして崇高な最後のアダージョに至るまで多岐にわたっています。2024年ヴェルビエ音楽祭のオープニングとして、マーラー解釈の第一人者であるサイモン・ラトルがこの作品を指揮。ソリストにマグダレナ・コジェナーを迎えて、真骨頂を發揮します。

ソリスト:

マグダレナ・コジェナー (メゾソプラノ)

演奏:

ヴェルビエ音楽祭管弦楽団、オー・ヴァレー声楽アンサンブル、オー・ヴァレー歌唱学院のカンティアーモ合唱団

指揮:

サー・サイモン・ラトル

曲目:

グスタフ・マーラー 交響曲第3番ニ短調



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

2024年7月20日 9:00からの再配信を試聴しました。初日のプログラムらしく関係者のフランス語の挨拶があって演奏が始まりました。

マーラーの交響曲第3番は、アナログ、CDの他、ベルリンフィルデジタルコンサートホールでもお馴染みです。

ラトルの指揮はベルリンフィル時代と同様に切れのよい指揮です。冒頭のホルンから始まり、コンサートマスターのヴァイオリンソロから、ピッコロ、コールアングレ、ハープやグランカッサの弱打など、役割の小さいパートまで、非常にリアルで、再配信とは言え、収録されたばかりの鮮度の良い演奏が聴けます。

メゾソプラノのコジェナーの歌唱も会場によくとおおり、合唱陣の分離も十分ですし、ヴェルビエ音楽祭管弦楽団は若いメンバーが多いのですが、円熟したラトルの指揮の下、よく統制の取れた演奏です。





4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、再配信とはいえ収録されたばかりの鮮度の良い演奏が聴けました。

以上